# 福島縣史蹟名勝天然記念物調査報告

第四

史蹟名勝天然紀念物調査報告　第四

# 福島縣發見石器時代土偶圖版解說

囑託　小此木忠七郎

福　島　縣

解說附圖一

第一圖

第二圖

第三圖

# 福島縣發見石器時代土偶圖版解說

第一版　雄性土偶(實大)前面

第二版　同　上　背面

出土地　大沼郡原谷村字小和瀨

本圖に掲げたる土偶は、適量の砂を混じたる粘土を用ひて先づ粗形を造り、水濕を失はざる內に細部を加工し、日光及び風氣に晒して充分乾燥せしめ、然る後に燒入れを施したるものにして、燒締りは堅く、褐色を帶び、叩音は石器に近し。細部は凸文(陽刻)を用ひ、更に鐵朱を以て區劃的の彩色を施せり。故に、效果的には頗る謹嚴の感を與ふ。製作上の一般の手法は標式的の厚手型なり。

其の構造は扁平にて全體角張らずに丸みを帶び、內部充實し、各部の橫斷面が夫々楕圓形を爲せるは注目すべき樣式なりとす。

表はされたる風俗は、頭部より覆面頭巾を被り、軀幹は密着せる筒袖の上衣を纏ひ、腰部以下は、狹く且つ短き袴を穿つ。足は跣足にして、明かに趾を示せり。この足部が殆んど畸形的に短縮せるは、燒入れの前程として充分乾燥せしいるに當り、地物に立て掛けしをもつて、全體の重量を受けて、其部分が特に壓縮せられしに因るべし。又兩股が著しく左右に踏張りを示せるは、一般の土偶に共通の姿態なり。兩腕は甚しく非寫實的に取扱はれあるも、これ亦土偶に往々見受くる型なり。

本土偶の首部が、特に一種怪偉なる形狀を呈せるは、本來顏面そのまゝを模したるに非ずして、特殊の覆面頭巾を被れる狀を表はせしによる。當時、各種の昆蟲の刺害を避くるため、竹又は木質の框に布を張り鼻目の擬形ある假面を取り附けたる一種の被り物を頭部より着用するは、一般に行はるゝ風俗なりしと思はる。

此形狀の土偶は、從來諸所に於て發見せられしが、何れも自然の顏面を模したるに非ざること上述の事由よりして明白なり。

頭巾の左右兩側、下垂せる部分の前後には通氣孔を有し、孔口には、一種の口具を取付けたる狀の表はされたるを見る。

なほ、本土偶に用ひたる文樣は、第二十七版46、47のごとく、所謂アイヌ系文樣の特色を示す網狀の曲線文樣なり。

全ての土偶は殆んど必ず性別を有す。本土偶は雄性なり。同一の遺蹟より別にほゞ同大の雌性土偶出土したるも、不幸にして甚だ破損せり。その殘缺の一片を第二十三版5圖に掲げ置きしが、乳房の存在によつて雌性なるを表示せるものなり。思ふに、雌雄一對の神像として製作され、且つ取扱はれしものなるべし。

この遺蹟は、只見川の左岸、河緣より約四十米突を距てたる桐畑中にあり。その包含層は地表下約〇、七米突に位し、砂礫層の上部にありて、腐植層を以て蓋はれ、斷續して點在せり。基底をなせる砂礫層は甚だ厚く、包含層は平水時に於ける水準高距約三米突を算す。

發掘せる遺物は、上記土偶の外、石斧(打製、磨製)石劍、石棒、石鏃、石屑、鐵朱、厚手土器等なり。

なほ、この遺蹟は、曾て水害によりて攪亂せられたるものと思はる。

第三版、　雄性土偶（實大）（右）前面（左）右側面

出土地　河沼郡上野尻

本土偶は、砂粒なく緻密なる粘土を用ひ、形狀は中空圓筒狀をなせる一種の樣式にして、燒締り中等、全體に赭色を呈し、頭頂、兩腕及び下體部は缺損す。

頭部より覆面頭巾を被る。この覆面頭巾は、框の內面に粗質の織物を張り、以て透光通氣に備へたるものと思はる。

體部は、第二十七版48のごとき文樣を以て裝飾し、更に頸部以上に朱彩を施したり。其の文樣は、第二十七版48の如く一般薄手に用ひらるゝ凹刻にして、且つ手法の輕快なること、及び空洞なること、土質の水簸十分なる點等よりして、薄手の後期に屬するものと思はる。

遺蹟は、阿賀川の左岸に沿へる段丘にあり。約三十年以前、岩越線鐵道工事の際偶々この遺蹟を發掘して本土偶を得たるよしなるも、遺物の包含狀態詳ならず。

尙ほ此の遺蹟にては今より百十三年前にも一體の土偶を發見したることあり、記事は丙午隨筆第百壹卷に詳かにして、左圖の如き「スケッチ」を掲げあれば、全文と共にこゝに引用すべし。

○會津野尻驛にて掘得たる土人形

ことし文化十二年といふ歲の六月ばかり、會津河沼郡野尻驛より、上れる世の土物を掘出せしかば、そを見て詠める長歌

會津のや野尻の里の　山そはの畠打つはしに
しづの男が掘り出したる　其のかたのあやに怪しく
その樣のいとめづらしみ　近き代の物とも見えず
遠き世の手ぶりしなせば　磯のかみ古きむかしの
埴輪とふたぐひならめと　名づけそめしか言初めつ
うべしこそしかにあるらめ　しかも有ば幾世埋れし
いつの代の如何なる人の　おくつきの名殘なるらし
物言はば問はましものを　物問へど問へど答へず

ゆかしけどせむすべをなみ　あはれさをあはれ偲ばむ

かたみとこれを　反歌

遠き代の誰がかたみとか殘るらむ此れの埴輪を見れば悲しも　直中

河沼郡野澤組上野尻村百姓德左衞門歳四十三。妻しま歳四十二。忰龜太郎――此者掘出し候――歳二十四。娘きい歳十四。小四人。外馬一疋。持高八石六斗貳升壹合。

一、右村方は我越後海道驛所に御座候。

一、掘出候場所は居村より二丁餘隔、字林崎（ハヤシサキ）と申所に御座候。蕎麥蒔節に至、六月十四日、伏畠と唱へ荒うなへに參候砌、己の上刻と相聞掘出候由。但右場所館跡と申傳にて、瓦、矢根石、くた石抔稀に掘出候由、誰居住の申分は不相分候。

右隨筆、原本は、新潟市縣立圖書館の秘藏なるが、昨年越佐地方見學の際、山中樵君の示教により始めて此れあるを知りたり。意ふに、此れこそ本縣の土偶に關する最初の文獻といふべけれ。

因に記す、天明文政の間、會津に田村三省といふ人ありて、封内の遺蹟遺物に精通し、遺著會津石譜あり。其中に石器土器の記事散見せるが、「石弩を産する地は必ず烏古瓦（土器）の破片あり、その無き地より出づることを未だ聞かず」と言ひ、「然れば上古は鐵なくて石を鏃とするなり。頃日蝦夷の矢を見るに角の鏃なり、鐵なき故ならむ」と解したる如きは敬服に値する卓見なるが、土偶らしき遺物のことは更に記載しあらず、土偶は當時全く未知の遺物なりし故なるべし。但し田村氏自身に蹈査採集を試みたりと云ふ會津領内の遺跡地名四拾餘ケ所を同書に列記したるは注意すべく、其中「上野尻村、柴崎へ行畑より出づ云々」とあるは、丙午隨筆に所謂龜太郎掘出しの地及び此の第三版土偶出土の地と、三者正しく暗合する所あるに省みて、此邊遺蹟地帶として既に久しく識者に注目されしこと明かなり。

第四版　**雌性土偶**（實大、下體缺損）（右）前面（中）左側面（左）背面

出土地　河沼郡千咲原

本土偶は、適量の砂を混じたる粘土製にして、燒締り堅く、灰色を帶び、樣式は平板

狀にて角張り、斷面は方形又は長方形を呈す。

顏面は素面にして輪郭丸く、眼は上方に釣上れり。その兩耳には、耳飾りを附着しありしこと、耳朶に殘れる痕跡によつて推し得べし。

頭部には帽子を被れり。この帽子の前後左右に見はれたる溝は、飾毛の挿入に用ひたる穿孔の缺痕なり。

上衣は詰襟の筒袖にして、胸前にて左右より紐結びに爲し、乳部には一對のポケットあり、袖、肩、襟、背、脇等に刺繡、文樣を施す。この文樣の敷設が、努めて左右均等を避けたるは、頗る注目に價す。すなはち、第二十六版15圖は左肩、16圖は右肩、17圖は前面、18圖は背面の文樣なり。その非對稱的なるを見るべし。

なほ、乳部の突起せるは女性の表象なるも、衣服、帽子等の形狀より推せば、當時の男女の風俗には、概して甚しき相違無かりし特殊の土俗を暗示するものなり。

本土偶發掘の遺蹟は、只見川口の右岸に位する段丘上に在り。

第五版　雌性土偶下體部(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　耶麻郡木幡村字上林

砂を混へたる粘土を以て作り、燒締りは堅く、灰色を呈せり。

樣式は角張らざる平板狀にして、第二十八、二十九兩版と略々同型に屬す。

腹部前方に突出し、又脚部の下端連接し上部開孔せるは、たゞ破損を防ぐ技工上の用意に過ぎざるものなり。

衣裝は刺繡を以て飾り、特に背面臀部に於ける文樣の布置頗る盛なり。

本土偶は雌性なれども、臀部平坦にして突出せざるは、一般の雌性土偶と、構造上多少その趣を異にせる式型なりとす。

遺跡は、一ノ戸川右岸の段丘一帶を占めて廣大なる地域に跨り、山林、耕地及村落宅地に亘り、悉く遺物の散列地にして、厚手及薄手土器、石棒、石劍、多孔石、叩石、磨製及打製石斧種々の石製利器等、遺物の種類數量頗る豐富なり。

第六版上段　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　北會津郡一箕村

砂を含める粘土を以て作り、燒締り堅く、褐色を帶ぶ。

顏面の輪郭丸く、且瞼裂斜走せること、恰も第三版土偶と酷似し、缺失體部の構造式型また該土偶と同式なるものと推せらる。

頭頂平坦にして、左右兩端及び後端より斜めに下方に通ぜる三箇の穿孔あり。

此等の穿孔は、被髮、髻、又は帽子飾り等、當時の土俗を模すべく、土偶の頭部に、毛髮、羽毛若くは纖維の類を挿入するに備へしものなるべし。

遺跡は、若松市の北方一箕山麓の耕地に存し、厚手及び薄手土器を散列し、また稀れに石器を出す。

第六版中段　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　耶麻郡熊倉

砂を含める粘土にて作り、燒締り強く、灰白色を呈す。

形狀は稍扁平にして角張らず、斷面楕圓形を呈せり。體部の構造は、第七圖版土偶と恐らく同一樣式のものなるべし。

鼻梁頗る高く、また頭頂より後頭に通じたる一箇の穿孔あり。此れ乃ち頭飾用の毛髮等を挿入するに用ひしものなること、上段土偶の其れと同樣なり。

遺蹟は、喜多方平野の東北高地上に位し、諏訪神社附近に厚手及び薄手土器の散列を見る。

第六版下段　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)背面(左)上面

出土地　北會津郡一箕村

本土偶は覆面土偶の首部殘缺にして、頭部凹陷し、且つ其の周邊に穿孔の跡あるより考ふるに、頭頂には大なる髮飾を有せしものなるべし。

耳形に附したる穿孔は覆面頭巾の通氣口、また頭後の文樣はその刺繡文なり。

(第一版第二版解說參照)後頭部の大なる凹陷は、後世に於て缺損せしものと思はる。

本土偶は、上段と同一遺蹟より出土せるものなり。

第七版　**雄性土偶**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　北會津郡門田村字御山

砂を混じたる粘土にて製し、燒締りは中等にして、褐色を帶びたり。

様式は第一圖版土偶と同系なれども稍後期に屬し、全體に平板狀をなし、且つ丸みを帶び、顏面には僅に朱彩の跡を存す。

風俗は頭に被り物を戴き、寬闊にして長き襯衣樣の上衣を著し、更に袴を穿てり。上衣の肩部に綿峰を有す。此れは、特に上衣の該部分に綿又は毛を縫込みて突起を作れる一種の仕立方を表はすものにして、土偶の土俗上往々見受くるところなり。本土偶に於ては、右側の綿峰は右腕と共に缺失せる殘痕あり。

遺蹟は若松市の南方約二里、田島街道の東側丘上俗に八幡上と稱する畑地に廣汎なる地域を占め、散列の遺物は石劍、土版、其他種類數量共に豊富なり。

第八版　**雌性土偶腰部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　南會津郡長野

本土偶は、砂を混じたる粘土を以て作られ、燒締り頗る堅緻にして重量に富み、表面は灰分の溶融に因つて琺瑯(ほうろう)狀の光澤を帶び、內外共に黑褐色を呈せり。

構造は厚き扁平體にして、腰部に於て甚しく擴張し、腹部に於て著しく狹搾せる一種の形式を有す。この腹部は角張り、其の斷面方形を爲せるは、第二二圖版及び第三〇圖版と同式型のものとす。

全面に、卷頭曲線及び平行線を併用して、濃厚なる裝飾文樣の陰刻を施したるが、此種の文樣意匠は、第一版及び第七版圖に於けるものとは全然文化系統を異にせるものと信ずるなり。

本土偶は、田島町北方郊外なる字長野に於ける路傍の一小遺蹟より出土せるものなるも、該遺蹟は、今日遺物の散列を見ること稀なり。

第九版上段　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　郡山市字下釜此字は最近郡部より市部に編入されり)

本土偶は、板形土偶の首部殘缺にして、顏面丸く、高き眉弓を有し、鼻梁亦著しく隆起して且つ深く鼻孔を穿てり、其狀貌特に寫實的なるものとす。

眼及び口唇は土手形の置土を以て形作り、頭部と頸部間の遊離部は、背面圖及び左側面圖に見るごとき特殊の支橋を添へて連結し、以てその離脱を拒げり。此種構造上の用意は、板形土偶に於ては其例乏しからず。

顏面側緣と眉弓側端との交角に存する淺き左右一對の穿孔は、卽ち耳孔を意味せるものなり。

土質は砂及び雲母に富みたる粘土にして、燒締り中等、全體に赤褐色を呈す。

遺蹟は郡山市の西部高地の一端に位し、其區域廣大なり。遺物は厚き土器を主として種類數量共に豐富なるが、本遺蹟に散列する土製遺物は、全て金色雲母を含み、燒上り赤色なるを其特徴とす。

第九版中段　**雌性小土偶下體部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　田村郡堀田

本土偶は、軟き粘土を用ひ手捻りせる小土偶なり。燒締りは中等にして全體に赤褐色を帶ぶ。

左脚部及び腹部以上を缺失すれども髖骨部擴張し、腹部隆起の殘痕を存す。

衣裝は、上衣の下端に裾模樣を刺繡し、袴にも簡單なる縱横線を附したり。全體の手法極めて輕快にして、太平洋岸に於ける文化系統の影響頗る濃厚なるを示せり。

第九版下段　**雌性土偶胴部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　安積郡桑野

砂及び雲母を含める粘土を以て作り、燒締り脆弱、褐色を帶びたり。

全體に板狀を爲し、乳部及び中線隆起す。衣裝には、繩文、並行曲線及並行點線の

陰刻を以て極めて簡明なる文様を敷設せり。

第十版上段左端　**土偶首部殘缺**(實大)

出土地　西白河郡内松

缺損甚しくして、顔面其の原形を止めざれども、目及び口は置土を以て作り、且つ高き鼻部を有せしものなるは、其痕跡によつて推し得べし。

眼の下方、鼻部の兩側に刻したる一對の並行短線文様は、蓋し刺青(イレズミ)の土俗を表はせるものならむ。

第十版上段右端及び中央　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面

出土地　西白河郡内松

鼻梁甚だ高く、目及口は凹點を以て簡單に表示するに止まれり。

背面中央部に、頸部と連接せし痕跡を有す。乃ち、其部分に於て頸部と繋がり、更に上縁は支橋を添へたる板形土偶の一にして、第九版上段の土偶と同一型なれども稍後期に屬せるものとす。

第十版中段　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(左)側面

出土地　西白河郡内松

顔面皿形を呈し、輪廓心臓形をなす。所々磨滅せるも鼻梁頗る高く、明に鼻孔を存せり。

眉弓及び口唇は凸文を以て布置せるも、口唇は剝落して僅に痕跡を殘せるのみ耳部亦缺損せり。

本土偶も、亦板形土偶にして、首部背面中央部に於て頸部と連結し、更に支橋を具せし痕跡あるは、前掲土偶と構造を等しくせるものなり。

第十版下段左端　**土偶首部前面殘缺**(實大)

出土地　西白河郡内松

本土偶は、既述せる中段及び上段等の土偶と異なり、頸部の構造は第七圖版土偶

と同一型に屬せり。

頭頂著しく狹小にして、顏面仰傾し、長き頸あり、且つ頭部に毛飾を挿入する穿孔を有せること圖の如し。

第十版下段中央及右端　**土偶首部殘缺**(實大)(中)右側面(右)前面

出土地　西白河郡內松

各部の缺損甚しと雖も、形式は第七版土偶と同一型に屬す。前頭部に於ける二箇の穿孔は、毛飾を取付くるに用ひしものなり。

本版に掲げたる以上五體の土偶は、何れも砂及び少量の雲母を混へたる粘土にて作り、燒締り中等にして褐色を呈せり。

遺蹟は西白河郡古關村字內松に在り、阿武隈川流域の最南端の遺跡に屬し、丘陵の南面四五町歩の地積を占め、厚手及び薄手の土器、石器等遺物の散列頗る豊富なり。

第十一版　**雌性土偶**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　安達郡嶽下村字原瀨

砂及び雲母を含める粘土を以て製し、燒締り堅緻にして、赤褐色を帶ぶ。

本土偶も板形土偶の一樣式なるが、腕を省略し、肩端略直角を爲せるは注目すべき特色なり。乳房及び體側線の描寫頗る寫實的にして美しき曲線を描き、且つ背面肩胛部の突起、背中線の凹陷、さらに前面鎖骨部の隆起、中線の凹陷、腹部の突出(多少誇大なる)等、全て裸體を表現せるものにして、全然衣裝の跡を止めざるは、亦本土偶の著しき特徴なりとす。

頭頂の凹陷部は髫若くは髮飾を取付けたる箇所にて、三箇の穿孔を通じて之に便せり。

遺蹟は安達太郎山東麓の一小丘阜上に在り、往年小學校建設工事の際、偶然包含層を發掘して多數の厚手土器及石器を獲たり。本土偶も當時の出土品の一なり。

本土偶は第五版、第廿八版等と同式型のものなり。

第十二版　**雌性土偶**(右)前面(實大)(中)左側面縮寫(左)背面(實大)

出土地　安達郡油井村里稱金田

砂を含める粘土にて作り、燒締り中等にして、全體に黑灰色を帶び、凹線文樣に朱彩を施したり。

形式は板形土偶の變體にして、支立不安定なれど、上部に特殊の突出部を設けて紐孔を通ぜるより考ふるに、此部分に紐を貫きて柱或は壁面に懸垂せしものなるべし。

頸部長く前屈し、頭後に支橋の跡あり、採集の際これを缺失したり。肩端延びて縱に穿孔あり、體の前面には乳房及び中線の突起あり、この突起は互に連絡して三叉狀を呈す。

首部は他に類例を見ざる異相を備へたり。卽ち、極めて高き鼻梁及眉弓の奧底に眼形を具へ、顏面の輪廓は蛇形に肖似し、その周邊には齒形を表はす。背部、頭部及前頭部は蛇紋に類せる文樣あり。更に耳は著しく突出して喇叭形をなせり。

其印象極めて怪奇にして、威怖の情を抱かしむるに足る。思ふに恐怖心の生める一神像ならんか。

遺蹟は、油井川の上流に沿へる耕地に在り、丘阜四方を圍み、地氣卑濕なり。往時にあつては、恐らくは陰森の惡境たりしならん。

此遺蹟より少許の薄手土器、及び石鏃を出土せり。

第十三版上段　**雄性小土偶**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　双葉郡百間澤

砂を混じたる粘土にて作り、雲母を含まず、燒締り低度にして、灰色を呈せり。

全體平板狀をなして丸みを帶び、斷面楕圓形なり。構造極めて簡粗にして顏面及び細部の施工殆ど無く、僅に筒袖の上衣と股引形の袴を着せる風俗を窺ひ得るに止り、一見前後の別を辨じ難し。

第十三版中段　**小土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(右)背面

出土地　双葉郡百間澤

砂を混じたる粘土を用ひ、雲母を含まず、燒締り中等、灰色を帶ぶ。

本土偶は、覆面土偶の首部にして、其形狀第一版又は第十四版上段の首部に類似せり。但し製作上の手法極めて簡素なれども、其間、形體の要領を緊約して表現の輕快なるは、太平洋岸の土偶の通性なり。

第十三版下段　**雌性土偶體部殘缺**(實大)(右)前面(左)背面

出土地　双葉郡百間澤

砂を含める粘土にて作り、燒締りは低度、灰色を帶ぶ。

筒袖の上衣を着し、其の肩及び裾に篦書きを以て簡素なる點線文及び凹線文を付し、前面には中線を陰刻せり。腰部は闊大し、乳房は缺失せるも、明に缺痕を存せり。

本版に掲げたる三體の土偶は、共に百間澤遺蹟より出土せるものなり。この遺蹟は、双葉郡の北端より相馬郡に跨る廣汎なる地域を占め、遺物は、薄手土器、石製品等種類、數量頗る豊富なるが、此遺蹟は單性の遺蹟に非ずして、彌生式の土器、石斧石庖丁等を夾雜散列するは、特に注意を要す。

第十四版上段　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　双葉郡酒井

砂を混じたる粘土にて作り、燒締り中等、灰色を帶びたり。

本土偶は覆面土偶にして、左右四箇の穿孔及び周緣の凹刻は、夫々に被り物の通氣口及び刺繍文様を表はせるものなり。

本土偶は、曾て其前面下緣の縱線文に因みて、有髯土偶として學界に論議せられしものなるが、此は自然顏面に非ず、從つて此線文は有髯說の論據を爲さず。

第十四版下段　**雌性土偶體部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　双葉郡酒井

砂を含める粘土にて作り、燒締りは堅く、赤褐色を帶べり。肩部以上、左側乳房及び右脚を缺失す。

前背兩面に簡單なる衣裝文樣を施せり。また、兩股間より體內に向け深く竹串を挿入せる痕跡あり。この痕跡は土偶製作の工程を語るものにして、燒入れ前の乾燥を行ふに當つては、乃ちこの竹串の一端を地中に立て、天日に晒してその乾燥を速ならしめしものとす。

本版土偶の遺蹟は、高瀨川の右岸浪江町の西南方一里餘の丘側にあり、薄手土器類と共に出づ。

第十五版　**雄性土偶下體部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　相馬郡大田和（圖版ネームは大和田と轉植したれば玆に正誤す）

土質は砂を混へたる粘土にして、燒締り中等、全體に褐色を帶ぶ。胸部以上缺失せり。

樣式は第一圖版土偶と同型に屬し、兩股を踏み開き、狹き袴を穿ち、其文樣には、アイヌ系固有の網狀文を凹刻す。凹線の所々に朱彩の跡殘れり。本土偶も、竹串を以て股間の中央部より體の中心に通せる痕跡あること前者の如し。

第十六版上段　**雌性小土偶胸部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　相馬郡駒ヶ嶺村字三貫地

第十六版下段　**雌性小土偶軀幹部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　相馬郡駒ヶ嶺村字三貫地

この二體の土偶は、共に砂礫尠き粘土を以て作り、燒締り中等にして赤褐色なり。手法輕快、文樣の敷設亦簡素なり、但磨滅缺損甚し。

遺蹟は、相馬郡三貫地貝塚として久しく學界に通知せらる。薄手土器、石器、骨器、

角器等遺物の種類及び數量豊富なり。

第十七版上段　**雌性土偶上體部殘缺**(實大)(右)前面(左)背面

出土地　相馬郡新地村大字小川

砂を含める粘土を用ひ、燒締り中等、灰色を帶ぶ。

首部多少缺損せり、本土偶も覆面土偶の一にして、製作式型は第七版土偶と同式なり。

衣裝は頗る簡素なる文様を敷設せるに過ぎず。たゞ、左右兩肩に肩峰を有せるは注目を要す。

第十七版下段左方二圖　**小土偶下體部殘缺**(實大)右前面(左)背面

第十七版下段右方二圖　**雌性小土偶上體部**(實大)(右)前面(左)背面

出土地　相馬郡小川

右圖の雌性小土偶は、此亦覆面土偶の一なり。手法は兩者共に簡捷を極め燒締亦低し。

第十八版上段　**雌性土偶下體部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　相馬郡小川

右脚及び胸部以上を缺失したるも、衣裝の狀態は明に窺ひ知るを得べし。上衣の裙には、この遺蹟地特有の裝飾文様を敷設せり。(第二十七版33—36參照)

土質は、小量の砂を混じたる粘土にして、燒締り脆弱黑灰色を呈す。

第十八版下段　**雌性小土偶胴部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　相馬郡小川

首部、左手及下肢缺失、大體前項のものと同じ。文様の地方色鮮明なり。

第十九版上段　**雌性土偶腰部殘缺**(實大)(右)前面(左)背面

第十九版中段　**雌性土偶胴部殘缺**(實大)(右)前面(左)背面

第十九版下段　**雌性土偶胴部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　相馬郡小川

本版三體の土偶は、何れも小量の砂を混じたる粘土にて作り、燒締りは低度にして灰色を呈せり。

中段の土偶は、その粘土(寧ろ泥土)に貝殼片を夾雜せる粗惡の土質にて燒き、火力低度なり。

下段のものは燒締り中等にして、磨滅の一殘片と雖も雌性の特徴充分に現はれ、對曲線の調形頗る優美なり。

第二十版上段　雌性土偶上體部殘缺(實大)(右)前面(左)背面

出土地　相馬郡小川

砂を混じたる粘土を以て作り、燒締り中等にして灰褐色を帶ぶ。

頭部、右手、腰部以下を缺失し、全體の磨滅甚しく、僅に衣裝文樣の陰刻を止むるのみ。但し手法古拙鈍重の感あり。



第二十版下段　雌性土偶胴部殘缺(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　相馬郡小川

砂を混へたる粘土にて作り、燒締り中等、灰褐色を帶ぶ。

上衣の裾に簡單なる文樣を認め得べし。

第二十一版上段　雌性土偶胴部殘缺(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　相馬郡小川

小量の砂を混じたる粘土を以て作り、燒締り中等にして灰黑色を帶ぶ。

頭部、兩腕、脚部及び左側乳房等を缺失し、上衣の前背及裾に附したる一種簡單なる文樣を窺ふを得べし。(圖版第三一を參看せよ)

第二十一版下段　雌性土偶胴部殘缺(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　相馬郡小川

土質は砂を含める粘土にして、燒締り中等、灰黑色を呈す。形調は厚みと丸みあり、文様は横線を劃し、交互に平地と繩文とを施し、前面中線隆起して點文あり。

第二十二版　**雌性土偶胴部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　相馬郡小川

多く砂粒を混じたる粘土を以て作り、高熱にて強く燒締めたるをもつて、頗る堅緻にして重量に富めり。地色は淡褐色なれども、表面は淡赤色の塗料を被覆して燒上げたるものゝ如し。

手法及び文様の布置に特殊の地方色の表はれたるを見るべし。乃ちこの様式は、會津地方乃至阿賀川流域より越後海岸に通じ、更に遠く佐渡方面より現はるゝ遺物に窺はるゝ所にして、日本海系に屬するものなり。(第四版、第八版、第三〇版、第三三版上段、第三七版上段第三九版中段參照)

第二十三版上段　**小土偶左脚部殘缺**(實大)

少量の砂を含める粘土を用ひ、燒締り低度にして、赤褐色を呈せり。

以上、第十七版以下に掲げたる十四體の土偶は、何れも相馬郡新地村小川貝塚より出土したるものにして、同貝塚は饒多なる土偶を發見せるを以て聞えたり。

此等の土偶は、此地域に於て、長き期間にわたり、夫々年代を異にして製作せられたりと見ゆ。(但し、第二十二圖版土偶は、特に著しく時代色と地方色を異にせるより考ふるに、該土偶は、貝塚積成の初期に於て他地方より移入せしものならん。

第十七版上段、第二十版上段、第二十一版下段の各土偶は同じく中期に製作され、其他は比較的新しき年代に屬せる作ならんと思はる。而して、過半は、太平洋岸に分布する遺物に共通なる技術上の特徴を具へたり。即ち製作手法の輕快にして而かも表現の巧妙なるは驚くべき技能を發揮するものといふべし。

第二十三版上段(2)　**土偶左脚部殘缺**(實大)

第二十三版中段(2)　**土偶右脚部殘缺**(實大)

出土地　河沼郡新鄕村字峯

(2)圖は深き靴を穿ちたる形にして、上部の並行線文様及點文は靴の裝飾文様及

びくゝり紐を表はせるものなり。

當時已に靴の用材には魚皮或は、獸革を用ひたるべし。

(4)圖は上部の横線に上衣の裾を殘し、下方に點文及び線文を以て袴の下端を畫き其下より素足を現はし、足部の右端に趾の陰刻せられたるを見るべし。

以上二體は何れも砂を混へたる粘土にて作り、燒締り中等にして褐色を呈せり。製作の手法極めて簡素なれども、壯重を旨としたる地方色の現れを認むるに足るべし。

第二十三版中段(3)

本圖は第一圖版土偶の首部右側面を別に縮寫したるものなり。(第一版解說參照)

第二十三版下段　**雌性土偶右胸肩手部殘缺**(實大)(右)前面(左)背面

出土地　大沼郡小和瀨

砂を混へたる粘土を以て作り、燒締り堅緻にして赭色を帶び、全面に滋澤を呈す。

本土偶は、第一版土偶と同一の遺蹟より出土せるものなるが、發掘已に甚しく破碎せられ、僅にこの殘缺を得たるのみ。されど、製作の手法全く第一版土偶と同樣の厚手型にして頗る莊重の地方色を有するものなり。(第一版解說參照)

第二十四版上段　**小形土版**(實大)(右)前面(左)背面

出土地　西白河郡栃本

此の遺物はむしろ岩版と稱ふべきものにして、濃灰色なる熔岩の一種を磨製して扁平楕圓形と爲したるものなり。上部に紐通しに用ふる一對の穿孔を有するのみなるを以て、表裏の別不鮮明なり。

第二十四版中段　**土版殘缺**(實大)(右)前面(左)斜背面

出土地　安達郡鹽澤

軟き粘土を用ひて作り、燒締り低度にして淡褐色を帶びたり。

周邊法瑪狀を爲し、卷頭曲線文樣を敷設したれども、兩面に大差を見ず。

第二十四版下段　土版(實大)(右)前面(左)裏面

出土地　北會津郡門田村御山

軟き粘土を以て作り、燒締り低度、灰色を帶ぶ。

扁平楕圓形にして上部に一對の穿孔あり。表裏の相違は頗る顯著なり。卽ち裏面はほゞ平坦なれど表面は肉置きに丸みを有す。而して前面上部に一對の乳房を存し上衣の中線の痕跡を存すること恰も第十二版土偶胸部の手法に類似せり。陰刻せる同心環文は、表裏相肖たり。

第二十五版　岩偶(實大)(右)前端正面(上)右側面(下)底部(左)後端正面

出土地　石城郡入遠野村字冷水(シラミヅ)

本遺物は、比重輕く且軟き第三期頁岩を磨製して作れるものにして、其形狀未だ他に例を見ずと雖も、一端に小兒の面貌を陽刻し、刺繡文を有する襁の類を以て之を卷きたる狀態を表はせる匐人形の一種と認む。



此遺物は手法上厚手の上期に屬すと認むべく、頗る莊重の感あるものなり。

第二十六版　土偶裝飾文樣集　其一　（文樣第二七版43、44圖參看）

第二十七版　同　上　其二

此圖は、第一版以下第二十五版に至る文樣のみを拓出して、文樣に現はれたる文化系統の考察に便するものなり。先史遺跡、特に土器の上に敷置せられたる文樣の種類は、此の外千種萬樣の觀ありと雖も、文樣構成の原子は、單に左の五件に過ぎざるべし。

甲、素地。　捏りたて其儘の平面にして、時に指紋の痕など殘ることあり。

乙、平文。　竹篦又は石斧などの表面にて素地を擦り均らし、又時としては、一旦布置したる文樣の一區を、意匠上わざと擦り消したる無文の部分を云ふ。有文區に對して、効果上文樣構成の一原子をなすこと前者と同じ。

丙、繩文。　最も普通なる地模樣として布置せらるゝものなり。多くの場合、其の一部を區劃的に擦り消して平文となし、若しくは其の上に强き線又は凸文

を置土する等、厚手にも薄手にも此の手法行はるゝが故に、先史時代の土製器をば繩文土器と呼べり。

丁、點又は點線。

戊、諸種の曲直線並に圓弧。

文様原子は、右の五種に外ならずと雖も、應用の意匠に至りては、民族固有の心理に支配せられて、不知不識手法構圖の相異を生ずる傾向あるを免がれず。文様の分化は、かゝる原理によりて進行し、漸く以て千差萬別の變體を生じたるが、今試みに圖上の文様に就いて仔細に其の意匠を考察せむか、大要二元の相異に歸着すべし。

第一元は主として線若しくは圓弧を用ふ。其の配合は此れを交錯するか、重ぬるか、或は此れを列ぶるかなり。其の配置は主として對稱的なり圖中の1. 2. 3. 5. 6. 9. 10. 13. 14. 19. 20. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 43. 44. 45. 46. 47. 48. は是なり。第二元は主として、卷頭曲線、渦卷、蕨手、直線及び點線を用ふ。其の配合は並行を主とす。其の配置は主として非對稱的なり。圖中の4. 11. 12. 15. 16. 17. 18. 21. 42. は是なり。

第二十八版以下の文様は此の集成圖に洩らしたれど、第二十八版、第三十三版下段、第三十四版上段、第三十五版上段、第三十六版、第三十七版下段、第三十九版上段及び第三十九版下段は、第一元に屬し又、第三十版、第三十三版上段、第三十四版下段、第三十五版中段、第三十七版上段及び第三十九版中段は第二元に屬すと知るべし。

文様の分布區系を觀察すれば、第一元に屬する土偶は、其の分布全縣域に通じて普遍的なれども、第二元に屬する土偶は、特に西部卽ち會津盆地に濃厚なりとす。此の事實は、土偶製作の式型並びに土偶より見たる土俗と相關聯して、先史時代に於ける文化系統の考察に有利なる資料なるべし。

第二十八版　**雌性大土偶體部殘缺**(實大)前面

第二十九版　**同　上**　背面

第三十二版左端　**同　上**　右側面(縮寫)

出土地　田村郡巖江付曲木澤

砂を含める粘土にて作り、燒締り堅く、淡褐色を呈せり。

體部は板狀にして邊緣やゝ丸みを帶び、腕部は第十一版土偶のごとく此を省略したり。乳房は下垂し、腹部充分に隆起したり。背部は平坦なれども、臀部の突起に從うて激しき彎曲線を畫き、脚部は殆んど缺失せるも、第五版土偶と同型なり。

腹腰部に於ける文樣は、衣裝の文樣と云はんより、むしろ土偶自體の裝飾として敷設せるものゝ如し。（第五版及び第一一版對照）鎖骨隆起肩胛隆起は寫實を離れ、樣式化して表現せられたるを見る。

此式型の土偶は、本縣に於ては田村、安達方面に一二其例を見、會津盆地、殊に河沼、耶麻方面には出例多く、更に羽前、羽後地方に分布するを見る。又手法上著しく肩の剛張りたる、腹部及臀部の前後に突隆せる、體側を走る對曲線等、相互の調和には一種の優美と莊重さとを表現したり。

第三十版　雌性大土偶下體部殘缺（實大）（右）前面（左）背面

第三十二版中圖　雌性大土偶下體殘部缺左側面

出土地　河沼郡川西村竈原

砂を混じたる粘土にて作り、燒締り强度、灰色を帶びたり。

形態頗る大にして、且つ寫實を離れ著しく形式化されたるは本土偶の特徴にして、腹部極めて狹搾し、角張りて斷面方形をなし、且つ過長に見ゆべく、腰部以下は急に擴張して踏開きたる兩股間穹窿狀を呈す。

上衣の形はせまくして裾長く、踝邊に達するものゝ如し。更に袴を着け、足部には靴を穿てり、全體の文樣は主として卷頭曲線を用ふ。

此式型の土偶は、本縣にては會津盆地阿賀川流域を主として東は西白河、石城方面に及び、遠く越後、越中より信濃地方に分布せり。

第三十一版　雌性土偶（實大）（右）前面（左）背面

第三十二版右端圖　同　上左側面

出土地　河沼郡竈原

土質は砂を含む粘土にして、燒締り堅く、褐色を呈す。

風俗は袖長くして手を過ぎ、丈長くして膝に達する上衣を著し、狹き袴を穿ちて

足は素足なり。

本土偶の面貌及び大體の形狀に於ける手法の略太平洋岸系の土偶に類似せるは留意を要する點なり

第三十三版　**雌性土偶上體殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　河沼郡竈原

砂を混じたる粘土を以て作り、燒締り堅く、赤褐色を帶べり。

本土偶の樣式は、第四版、第八版、第二十二版土偶と同型にして、且つ文樣に於ても、卷頭曲線文、並行直線文、並行點線文等を布置せること略々相似たり。

第三十三版下段　**土偶左腰脚部殘缺**(實大)(左)前面(中)內側面(右)背面

出土地　耶麻郡木幡

充分水鏇を施したる粘土にて作り、燒締り低度、灰色を帶ぶ。

本版土偶と同系に屬する土偶は、特殊の形容を具へ、何れも中空にして各部の手法著しく形式化され、且つ兩脚を甚しく踏み開きたる如き姿態を爲せるを常とす。

本縣に於ては出例甚だ稀なりと雖も、兩羽、陸奥方面に普通とする所の型式なり。此型式の土偶は薄手の最後期に屬するものゝ如し。

第三十四版上段　**大土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　河沼郡袋原

砂を混へたる粘土を以て作り、燒締り堅く、赤褐色を呈す。頭部は鐵朱にて色彩を施しあり。

本土偶の面部は自然形を模したるものなるも、頭部は一見異常の形容を具へたり。此れ恐らくは覆面頭巾を頭上に手繰り上げし狀態を表はせるものにして、凹刻文樣は卽ち覆面頭巾の刺繡文を示せりと思はる。

第三十四版下段　**雌性土偶胴部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　河沼郡竈原

砂を混じたる粘土にて作り、燒締り中等、褐色を呈す。

上衣の背面及び側面には點線及び卷頭曲線の文様あり、上衣の下端を以て此れを表したり。

第三十五版上段　**雄性土偶**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　河沼郡竈原

砂を混へたる粘土にて作り、燒締り堅く、灰色を呈す。

本土偶の形狀は稍扁平にして丸みを帶び、斷面楕圓形を爲せり。頸部上肢部其他諸體部著しく寫實を離れ、底面を平坦に型つて置物としての形態を具ふ。また土偶中一門の式形に屬するものなり。

第三版土偶も、中空なる點は構造を異にすと雖も、或は本土偶と同一形式に屬するものならむ。

第三十五版中段1　**雄性土偶右肩手部殘缺**(實大)

出土地　河沼郡袋原

砂を混へたる粘土にて作り、燒締り堅く、褐色を呈す。

式形は第一版、第二十三版5と同型にして、肩に綿峰をあらはしたり。

第三十五版中段2　**雌性土偶左腰脚部殘缺前面**(實大)

第三十五版中段3　**土偶左腰脚部殘缺**(實大)前面

出土地　河沼郡西川村峯

本二體の土偶の形式は第三十版と同型なり。

第三十五版下段　(4)、(5)、(6)、**土偶首部殘缺**(實大)

出土地　(4)河沼郡八坂野　(5)同郡竈原　(6)同郡峯

(4)圖は頭部に穿孔の痕跡あり。(6)圖と同樣毛飾りに用ひしものなり。

(5)圖は帽子を被りたる狀を表はせども穿孔を有せず。

河沼郡千咲、竈原、袋原、峯等、本版掲出の各土偶を出土せる遺蹟は、只見川及び阿賀川の合流點附近に相隣接して分布せり。本流域の段丘は、最も古き厚手より比較

的新しき薄手に至るまで遺物の包含層に富めり。

阿賀川の水路は右の遺蹟地方に於て盆地の西岸高地に衝突し、甚しく浸蝕作用を逞しうし、乃ち袋原、竈原附近に於ては、深く洪積層を穿ちて、第三期上部層に達し、兩岸に六、七十米突の懸崖を作り、更に蜒々曲折、河沼、耶麻兩郡の境を蛇行し、只見川と合するに及んで益々河幅を廣め、若くは深淵を湛へつゝ峯、上野尻等の遺蹟を貫きて越後方面に駛走せり。

河流の狀態如斯さを以て、上流盆地は年々洪水の氾濫甚しく、よつて先年河身改築工事を起し、蛇行部を改めて直線水路を設くることゝなり、竈原に於て長さ約四百米突、深さ約五十米突の堀割を穿ちたる際に當つて、偶々此の包含層を覆し、頗る珍奇なる遺物を得るに至れり。

此等の遺物の多くは、遺蹟地附近の村舍に保管し、一部は東北帝國大學法文學部に收藏せられたり。

第三十六版上段　**雌性土偶腹腰部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　河沼郡八坂野

本土偶は、第五版、第二十八版土偶と同型に屬す。

第三十六版中段　**雌性土偶腹腰部左手殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　河沼郡千咲原

本土偶は前掲土偶と其の形式を等しくせり。

第三十六版下段　**小形土版**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　大沼郡佐賀瀬川

本土版は表裏同形にして殆ど其差別を見ず。

上部には紐を通ずる一對の穿孔あり、又縱に一双の溝あり、更に點文を印して中線と爲し、その外側に卷頭曲線文樣を敷設したり。

第三十七版上段　**土偶腹腰部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　西白河郡町屋

砂を混じたる粘土にて作り、燒締り堅く、褐色を帶ぶ。

形式は第八版、第二十二版土偶と同型にして、並行直線及び點線を併用せる文樣を布置したり。

第三十七版中段　雌性小土偶上體殘缺(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　田村郡谷田川

多少水鑱したる粘土を用ひて作り、燒締りは堅く、赤褐色にして稍滋澤を帶びたり。

形狀は扁平なる板形にして邊緣丸みを帶び、頭部は覆面頭巾を被れる狀をあらはし、その兩側端に一對の穿孔を有せり。但し一側は缺失して僅に痕跡を存するのみなり。

胸部及び首部に現はされたる大體の手法は陸羽系に屬せり。



なほ、本土偶は、扁平小型にして且つ特殊の形狀及び面貌を有せると、及び一種の手澤ある點等より想像するに、恰も土版と同樣に紐を通して體部に佩用せしことあるものと思はる。(解說附圖第五圖參看)

第三十七版下段　雌性土偶胴部殘缺實大(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　田村郡谷田川

砂を混へたる粘土にて作り、燒締り堅く、褐色を帶ぶ。

衣文は所謂繩文にして、又磨消し文樣ある等第二十一版下段圖土偶と酷似せり。

なほ、本土偶は曾て火災に遇へるものゝ如く、外部甚しく燒爛せり。

第三十八版上段　雌性小土偶殘缺(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　伊達郡東湯野

砂粒多き粘土にて作り、燒締り中等にして赤褐色を帶ぶ。

本土偶は磨滅甚しと雖も、面部は覆面頭巾を破れるものにして、左右兩側端に一

對の穿孔を有し、頭頂平坦なり。衣文等の細部は悉く消失せり。

乳房、左手、脚部を缺失せるも、體側の彎曲線と腹部の隆起によりて其雌性たるを知るべし。

第三十八版中段　**土偶首部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　伊達郡萬正寺

砂を含める粘土を以て作り、燒締り堅緻にして、赤褐色を呈す。

本土偶は磨滅甚しきも、頸部接合及び一般樣式より察するに、第二十二版土偶と形式を等しくせるものにして、此形式の土偶の分布は、一端を會津地方に存し、一端を相馬郡に置き、本遺蹟は其中間に位するものにして、分布上注目に値するものなり。

第三十八版下段　**雌性土偶殘缺**(實大)(右)前面(中)左側面(左)背面

出土地　伊達郡大枝村根岸

砂粒に富む粘土を以て作り、燒締り強く、褐色を呈す。

全體に磨滅缺損甚し。前面に一種の點線文樣あり。背面の文樣は、第二十一版上段、第三十一版、第三十四版下段、各土偶背面の文樣と同樣なり。式型は本版上段と共に太平洋型に屬す。

第三十九版上段　**雌性土偶下體部殘缺**(實大)(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　石城郡大畑

兩脚を強く踏み開き、股間穹窿狀を呈せること式型上第十五版土偶に類似せり。腹部角張らずして斷面略々圓形を呈し、文樣は極めて簡單なる平行曲線を布置せるのみ。

第三十九版中段　**雌性土偶腹腰部殘缺**(實大)(右)前面(中)左側(左)背面

出土地　石城郡大畑

沙を混へたる粘土を以て作り、燒締り堅く、赤褐色を呈せり。

第八版、第三十版及び第三十七版上段圖各土偶と同一型にして、日本海系に屬するものなり

文様は簡單なる平行線及び卷頭曲線を配合して敷設し、前後僅にその趣きを異にせり。

第三十九版下段　土版(右)前面(中)右側面(左)背面

出土地　石城郡南富岡

軟き粘土にて作り、燒締り強く、灰色を帶びたり。

此土版は楕圓板形の側面に一條の點線を繞らし、背面は略平滑に、前面には注意すべき特徵を有せり。即ち全體として土偶に於ける身體部を殆んど省略し盡しながら、上端に眉と鼻とを鮮明に殘し他は衣裝に於ける細部を假りて莊嚴を期したり。

昭和五年一月十五日　印刷
昭和五年一月十八日　發行

著作兼發行者　福島縣
東京市芝區田村町五十一番地

印刷者　福井安久太
東京市新橋驛烏森口角

印刷所　安久社印刷所